

-----1月12日-----

来週のアウトルック (1/12~1/16)

1/9(金)の米国雇用統計の発表後、ドル円は一時的に買い戻し等で上昇した後、NY市場が始まる頃には90円に迫る円高水準となりました。雇用統計の結果そのものはある程度予想通りのものだったのですが、失業率が7%を超えるという状況はやはり重く受け止められて当然のように思います。

今週は90円の防衛ラインはある程度意識されるものの、それほど強いものにはならないのではないかと考えています。一度90円を抜けてしまえば、次に意識される87円あたりまでは、ジリジリと落ちてしまうような気がします。しかし、日本政府や米国政府の口先介入的な動きがあればある程度の反発も考えておく必要もあると思います。また、オバマ新政権の更なる景気対策の憶測等の情報にも注意する必要があると思います。

ユーロの動きは不安定なものになっています。利下げに関してもさまざまな情報が錯綜し、ドルとの綱引きもますます難しい状況になりそうです。またECBの関係者からもそれぞれ違った情報が流れているようで、多国籍通貨の難しさを感じます。

トレンドがはっきりしない動き、あるいは乱高下の繰り返しなど、ポジションを持つにはあまり適さない状況が続くと考えています。こういった状況のときは無理をせず、ユーロ関係については様子見ということでもよいかと思えます。

ポンドの状況も難しいように思います。更なる利下げ期待、景気対策への期待等で、一時的に140円あたりまで回復してきましたが、米ドルの状況変化に伴い、再び下降トレンドを戻りそうな状況です。ただ、最終的には130円から140円あたりでレンジ的な動きに落ち着いてしまうことも十分考えられます。135円を割ったところからは、いつ反発してもおかしくないようにも思います。下降トレンドの継続と決めつけてしまうことは危険な賭けになってしまうかもしれません。

システムトレード的アドバイス

「ストップ&リミットを含めたオーダー」

指値でオーダーを入れるときは、必ず予めストップ&リミットをセットにしてオーダーすることがほとんどです。また成り行き注文の時でも、注文成立後すぐに、ストップ&リミットを設定することになっています。

これは裁量トレードでもシステムトレードでも共通しています。

理由は

- 1.トレードを長く継続する上で一番大切なのは守備的(防御的)な要素を重視できる
- 2.ストップ&リミットを決めてから勝率を考えていけば、トレードモデルの性格付けが容易にできる

1については後日説明いたします。2はどういうことかと言いますと、たとえば、ストップを40銭、リミットを30銭に設定し、1日一回トレードするとします。便宜的に月に20回トレードすると仮定すれば、勝率5割で月に1円分の負け、勝率6割で月に40銭の勝ち、勝率7割であれば月に1円80銭の勝ちです。

何も考えずにトレードしても、十分に長い期間を経過すれば、勝率は5割に近づくはずで、ストップを40銭、リミットを30銭という設定なので、自然と勝率が5割より上がることは想像できます。あとはポジションを取るタイミングと売買サインの方法を考えるだけということになります。

売買サインを出す方法をそれ程試行錯誤しながら深く考えなくても、ある程度トレンド

方向にそったトレードを心がけていれば、勝率は十分長い間の平均値としては、6割にある程度近づいてしまう。これは別に言葉のトリックではなくて実際に検証してみればわかることだと思います。とすれば月平均40銭程度の利益を上げることはそれほど難しくない？

この真偽はさておきまして、ストップ&リミットを決めてからトレード方法を考えていくというアプローチ法は、裁量、システムトレードを問わず、いくつかの利点があります。ひとつは、トレード結果の安定性が上がるということ、もうひとつは、うまくいかなくなった時の問題点を探しやすいということです。

一度検討してみる価値は十分にあると思います。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。